



洋書輸入協会会報

Vol. 29 No. 12 (通巻343号) 1995年12月

理事会報告

11月27日(月)

(一)10月分収支

11月16日(木)開催の総務委員会で審議の10月分収支について総務委員長報告を承認した。

(二)委員会報告

イ. 総務委員会

ダイレクトリーとは別個に会員台帳を作成したい。但しこれはワープロフロッピーで事務局に保管しリストにして配付することはない。

ロ. 事業委員会

10月25日開催された、東京国際ブックフェア実行委員会の報告で来年度のブックフェアのアウトラインが下記のように明らかにされた。

1. 専門書ごとのドームをつくりたい。

1. ニューメディア商品の展示を積極的にする。

1. 海外出版社の参加は東南アジアが多く欧米の大手の参加は少ない。

1. 洋書のバーゲンセールを前回よりも大々的にやりたい。

(三)その他

イ. 退会

(有)第三書房は11月末を以て洋書部門を閉鎖するため、(株)文生書院は12月末都合によりそれぞれ退会希望があり承認した。

ロ. 理事(代行)の交代

17年間理事代行として尽力された(株)紀伊國屋書店の吉本専務は定年のため理事代行を離任され同社高井

常務が替わって就任した。

ハ. 1996年度新年賀詞交換会を1月9日(火)例年通り新宿のセンチュリーハイヤットで開催することとした。

海外ニュース

NBA 廃止後の英国出版界

書籍正価協定(Net Book Agreement=NBA)に終止符が打たれてからおよそ2カ月経た英国の書籍出版・書店業界は、NBA 崩壊時の騒ぎとその影響による一時的な好況もおさまり、ひとまず順調な売上を維持している。しかし、再び警戒のムードも戻りつつあると言う。ある書店主は、NBA の廃止直後の書店は押すな押すなの人出で、中にはすべての本を「値切る」ことができると勘違いしていた客もいたが、こうした状況は10月一杯とのことで現在は落ち着いた、と語っている。

大半の書店がその程度の差はあれ、タイトルを特定した値引きによる販促を試みている。この結果について判断できるのは、おそらくクリスマスシーズンを終えてからであろう。そうした値引き対象のタイトルの中には、出版社側が書店に対して特別ディスカウントを与えないものも含まれているが、売上部数の増加が利益率の低下を補うはず、と書店側は見ている。勿論、出版社が特別ディスカウントに協力的なケースもあり、その場合、書店側は売上部数の増加とあわせると利益率の点でこれまでより不利になることはない。ただし、こうした見込みはあくまでも値引きによって売上部数が増加することを前提にしているため、現在までの状況はまずまずだが、

目次

理事会報告	1	NETWORK or NOTWORK	3	洋書輸入協会史(102)	5
海外ニュース	1	うちの会社	4	1996年度主要国際書籍展一覧	7
海外出版界変革の兆し-1995年	2	文化厚生委員会だより	4	広告	8

まだ将来については未知の部分が多い。特に、チェーン店に属さない独立書店の場合は売上部数と値引きの最低ラインの間の狭く険しい道を歩まされることになる。

NBA 廃止直後の時期、独立書店の幾つかが「スーパーマーケットで本をというなら、私達のところでは豆を差し上げます」というキャッチフレーズで、本を一冊買えば無料で缶詰をプレゼントというキャンペーンを行い、話題を集めた。この冗談の趣旨を理解し、独立書店を支援する顧客も多くいたと、主催した書店は語っている。

また、出版社側では売れ筋のペーパーバックの価格を新年より20%程度値上げすることで、ディスカウントの打撃を回避しようという動きもあるが、一方ではNBAにあくまで反対の立場から、書店へのディスカウントも値引きも特にしないとうところもある。

いずれにしても、後戻りは出来ないという事実が、英国の出版業界全体をまだはっきりとは見えない新しい方向へ導きつつあることは確かである。

—The Bookseller 10月20日、27日、

および11月10日号より抜粋—

海外出版界変革の兆し—1995年

戦後50年の節目と言い、良くなるきっかけを握もうとしたものの、吹き荒れる逆風に翻弄された1995年が早や暮れようとしている。

さて、目を海外の出版界に転じると、手元の貧しい資料から見て今年は変革の兆しがいよいよ鮮明になった一年であったと言える。その兆しの第一は出版界におけるINTERNETの急速な発展であろう。出版情報の開放のみならず、希望すれば目次やCONTENTS果てはFULL-TEXTをも読者に提供することが可能になりつつある。また、INTERNETは従来の書籍販売の在り方をも大きく変えようとしている。本家アメリカでは無在庫・無店舗の“書店”が既に画面上に開店し、商売は好調であると報じられている。更に、新聞社がニュースの提供に止まらず新刊書の受注サービスを開始する〔Washington Post “BOOKS & MORE”〕など、出版社—書店—読者という物流・商流の構図が古典的と見なされそうな形勢である。一般に保守的と言われるフランスでもGallimar社がいよいよ出版情報をINTERNET上に開放する時流となったことを銘記しなければならない。

その第二は電子メディア商品の急成長であろう。今年のFrankfurt Bookfairでは電子メディア・フロアが特設され、マスコミの取材も活発で大フィーバーの観があったと聞く。辞書・辞典を始めとする参考図書類の電子化は今や常識となり、自然科学系、法学系出版におけるCD-ROMがINTERNETの進歩に歩調を合わせるが如く重要商品に成長して来た。出版社から見れば付加価値の高い商品であり、読者（この場合はユーザーと言

うべきか）にとってはコンパクトで便利な情報媒体であるが、われわれ書店には極めて扱い難いものではある。とは言え、印刷・冊子体だけではなく、目に見えない電磁波やプラスチックのお皿も出版物であり商品なのである。

INTERNETではWorld Wide Web (WWW)がサービスの一つである。因みに辞書を紐解くと、“Web”とは『蜘蛛の巣』とあり、イメージを良く表しているがもう一つ『仕組みられたもの・罫』という意味もあるようだ。油断して蜘蛛の巣にからめ捕られないよう心したいものである。

第三として本の再販制度の動向をあげたい。英国ではこの10月から定価販売協定が消滅したが、早速安売り合戦が激化、体力の無い中小書店の倒産が懸念されている。フランスでは1979年に同制度はいったん廃止されたが、文化保護を理由に既に復活している。朝日新聞によれば、欧州ではドイツ・イタリア・オランダなど9ヵ国が同制度を堅持、英国・スウェーデン・ベルギーなど6ヵ国にこの制度が無いそうである。わが国でも出版・書店界にとって重大な問題として議論を巻き起こした再販制度は、独禁法上は原則違法とされながらも、その廃止はどうか先送りになるもようである。但し、行革委や公取委がすっかり手を引いた訳ではないところが何とも歯切れが悪い。この制度の有無は、出版物や芸術作品をその国が（官僚が？）どう認識しているかを知る一つの手がかりである。観念的な自由競争論議に外圧に突き動かされた規制緩和にこだわるあまり、自国文化の衰退を招く愚学は願い下げである。〔丸善洋書センター・高橋 紘〕

NETWORK or NETWORK

丸善株式会社 松田和之

意外なほど簡単に世界へ向かって情報の“give & take”ができるインターネット上には世界中の様々な情報が氾濫しています。政府機関の公開情報、大学・研究機関の研究成果、図書館の所蔵目録、気象情報、就職情報、商用情報、商品カタログ、電子ジャーナル、飲み屋の情報など多種多様です。

WWW (World Wide Web)による情報検索と情報発信はインターネットを代表するサービスのひとつですが、文字情報を主体としたファイル検索・転送システムのGopherやWAIS (Wide Area Information Server)等についても今ではコンピュータ専門誌だけではなく、一般誌にも取り上げられています。

1990年スイス・ジュネーブの欧州原子核共同研究機関(CERN)で考案されたWebは今やWWWとして世界中にクモの巣を広げています。

パソコン等をインターネットに接続し、今や日々増殖し続けるWebサーバーを利用するためには“Webプロセッサ”と呼ばれるソフトが必要です。

代表的なブラウザとしては、米ネットスケープ・コミュニケーションズ社の“Netscape Navigator”が有名で全世界の70%を超えるインターネットユーザーが利用しています。ブラウザにより、HTML (HyperText Markup Language)によって記述されたWWWのページをがディスプレイ上に展開されます。

マルチメディア・ベースのルーツとしてのWWWは、静止画はもちろんのこと音声までも駆使したインタラクティブな仮想空間を身近に実現させます。さらに、Webサーバー上のプログラムをクライアント側で実行させ、動画や音声のリアルタイム再生を可能にした新機能も開発され、新規流通チャンネルとして21世紀への流通革命のプレリュードの主役とも言われています。

インターネット上のディレクトリー (<http://www.yahoo.com>)によると、“shop”で1,020件、“book-

shop”で40件のWebサーバーが12月現在オープンしています。それらは全て人手のかからない24時間体制で、世界中へサービスを提供し、時間的・空間的効率の向上が計られています。

ただ、Webによる受・発注システムでは、発注者が正規の本人なのかの確認が必要となるなど、受・発注にまつわる様々な情報の信憑性の確保が必要となります。デジキャッシュも実用レベルに成りつつあり、セキュリティに対する関心の高まりと共に、エレクトロニック・コマースは着実に進展しています。

インターネットは国、地域、企業、公的機関を越えた共通の手段と情報形式を有しています。小規模な企業や個人でも巨大な市場を狙うことができ、これを有効活用することで企業間での競争優位性は大きく向上することは明白です。

このような情報社会の発展が分かりやすく解説された、月尾嘉男著「マルチメディア超企業破壊—情報革命で潰れる会社・生き残る会社—」(徳間書店、1995)は是非一読されることをお奨めいたします。

Microsoft Windows 95の発売で、年末のパソコン商戦は賑わいをみせていますが、今年日本で販売されるパソコンはおよそ500万台といわれ、その3/4がビジネスに使用され、ネットワークに接続されています。ネットワークされない人々、ネットワークを活用しない人々は、NETWORKと言われる時代が到来するかもしれません。さらに、インターネットによって国際的な情報に接することにより、ここの視野や見聞が広がることも見逃せない大きな効果です。ともかく、パソコンが普及するにつれて、人とシステムとの健全な関わりが、新たに、そして極めて重要なテーマとなってきました。

まずはインターネット・サーフィンを経験してみてください。「百聞は一見にしかず」の諺を実感することでしょう。

うちの会社

ロングマン・ジャパン株式会社

本年1月から、三代目社長としてポール・ラストが就任し、初代が日本人、二代目が英国人、三代目が米国人と、正にインターナショナル・カンパニーの面目躍如というところ。本国の組織がアジソンウエスレイ・ロングマンとして合併した事実を、1724年以來のロングマンの長い歴史にピリオドを打つと考えるか、或いは、アジソンの40数年の歴史を加算すると判断するか……ロングマン社の代表事務所が36年前に現顧問酒井氏により創設されて以來初の大改革が親会社ピアソンの号命でなされ、更に大西洋を挟んでAWとロングマンの間で小改造が進行中で、弊社は、明'96年からは、専門書は全てなくなりロングマン、アジソンウエスレイ、ネルソンの英語教育関係出版物のみを扱

うことになりました。現在、正社員は日本人が14人、外国人が5人で、内、女性が12人と過半数を占めております。英語教材のみに専心となった途端に、好不況に感応しない筈だった英語教育市場が、語学学校に依存する度合いが増えている為今回の不況で初めて多大な影響を受け、更に18才人口の減少、等々で、意気消沈の我々にも、数年後に小学校に英語を導入する計画が文部省から発表されて希望の灯が見えてきたところです。今年は、ベストセラーのロングマン現代英々辞典の第3版と、今後のベストセラーを狙う日本向け米語コースのIMPACTが出版された記念すべき年でもあります。

(川原勝洋)

文化厚生委員会だより

フォーティーラブ (JBIA テニス同好会) 秋合宿

——野田市のロイヤルSCテニスクラブ 1995・10/21(土)参加 25名——

当会の秋合宿は、野田市内の名門クラブである『ロイヤルSCテニスクラブ』にて、10/21(土)のAM9.00～PM5.00間に、昼食会を挟んで、硬式テニスの練習と試合行事で開催。好天に恵まれ、当日参加全25名の皆様方には、好プレー続出の迫力ある練習試合を展開された後も、シャワーでリフレッシュし、バーベキュー夕食会を愉んで頂いた。

当会主催の硬式テニス練習・試合・合宿の親睦行事開催については、かねてより、会場には、東京近郊にて『北部、又は東部』の施設も選んで欲しいとのご要望が多くJBIA 会員各社の皆様から寄せられているため、今回は幹事一同が入念検討、下見して、都心の丁度『北東部』位するこの名門クラブを選定。運良く、Oxford UPの東条氏のホームグラウンドであり、今回は同氏のご紹介とご推薦の甲斐あって、コート3面を終日借り切った親睦行事が実現した次第。東条氏には深謝。さすがに立派なコート！

なにしろ、日本の女子テニス界を代表する名選手達の伊達や雉牟田がプレイしたこともある当クラブが会場と案内されたせいか、今回は参加者が多く、女性陣には、洋販の斎藤、田坂、金子、中村各若手社員勢に、丸善の室伏、松浦夫人等も迎え、男性陣には、常連組の他に、東条氏を筆頭とする強者の面々が、ナウカの水上、日貿の小野、小出各氏等初見参された。試合も熱戦が続いて、連戦での「勝越し」は至難となり、丸善の昆野、フランス図の近藤、東光堂の江口、友隣社の上原各氏等の実戦力急伸は瞠目もの。次回は晩秋の山中湖畔で「紀伊國屋山中荘」と「なぎさTC」が会場。忘年会も同時開催予定。雪辱を期す。

今回参加者は各社別に、丸善(5)、医/MYW(4)、洋販(4)、東光堂、日貿、紀伊國屋(各2)、OUP、フランス図、友隣社、三省堂、マイブックS、ナウカ(各1)の計25名。

(プレイバック・ファイター W生)

洋書輸入協会史 (102)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

119 昭和40(1965)年度(s40.4月~s41.3月)の規約改正、理事改選、新入会員、退会者、業界消息など(前号よりの続き)

119.9 その他

(1) 英国博覧会の開催

昭和40(1965)年4月25日の理事会に、財団法人英国博覧会の Peter Heath 氏が出席、次のような説明と要請があった。

9月17日から10月3日まで、晴海において英国博覧会が開催される。ただし図書の展示は博覧会としてはやらない。事務局ではいろいろなポスターや宣伝材料を作るので、洋書輸入協会の会員におかれても、店を持っている所は店頭に表示し、或いは得意先に配るなどして、英国調の盛り上げに協力をお願いしたい。

以上のような話であったので、洋書輸入協会としては取り上げず、その代りに個々の会社で大いに協力しようということになった。

英国博は次第に盛り上り、期間中には英国から王女御夫妻も来日されて、成功裡に終了している。

(2) 1966年用雑誌カタログの価格について

某大手が1965年秋季に作製した外国雑誌カタログ1966によれば、各国の換算率は次の通り。一例として記録に残しておこう。

US\$...¥450. — Stg. £...¥1,260. —

DM...¥110. — F.Fr...¥95. — S.Fr...¥125. —

H.FL...¥125. —

(3) オーストラリヤが通貨単位を変更

昭和41(1966)年2月14日より、オーストラリヤは、従来の1オーストラリヤ・ポンド(¥806.40)を新しく2オーストラリヤ・ドル(¥403.20×2)に変更する旨の発表があった。

120 昭和41(1966)年度の高賊版

昭和41(1966)年5月10日の理事会で、Mellor の Supplement の高賊版が報告された。他に German-English Technical Dictionary と Gmelin もやっている模様とのこと。版元は神田司町の工元社で、貸机で商売している由。早速弁護士に知らせ摘発をやって貰うこととする。

7月15日の理事会では、Gmelin の高賊版が浦和で刊行されたとの風聞が紹介された。

11月25日の理事会で、Longmans の酒井氏が Mellor の高賊版を入手、弁護士の高賀氏と共に神田警察署へ告発したが、工元社はいつの間にか消えうせ、遂に現物の stock は入手出来なかった由。また Gmelin もやっていたらしかったが、こちらは現物が1冊も入手出来なかったとのこと。高賊版は浜の真砂のように次々と出現してたねが絶えない観がある。

121 昭和41(1966)年度の通関事情。

121.1 大蔵省東京税関東京外郵出張所と理事会との懇談会

昭和41(1966)年7月26日に頭記の懇談会が開催された。いろいろと面白い話も出たが、主な事項は次の通り。

(1) JBIA 会員外の洋書輸入業者数について

現在、洋書輸入協会の会員数を上廻る非会員が存在し洋書輸入を行っている(注:昭和41年度末現在 JBIA 会員数66社、これに対し東京地区の非会員は約80社、関西地区は約20社、計約100社)。東京外郵出張所としては、昭和33(1958)年8月に通知された事後通関の便法を、協会員に対してだけでなく非会員にも適用さざるを得ない。従って非会員を出来るだけ洋書輸入協会に協会員として吸収し、通関の趣旨が広い範囲に徹底するよう努力してくれないかとの要望であった。

察するところ、洋書輸入協会は月2回の理事会と年に1回の総会、しばしば開催される懇談会を持ち、機会ある毎に理事会と税関側との懇談会を開いて意思の疎通を計り、必要あれば洋書輸入協会発の文書で必要事項を通知する組織を持っているので、税関側は対応が非常に楽である。ところが非会員の方はこのような組織が全くなく、注意事項、伝達事項はすべて一社一社に対して行わなければならない。大変な手間であると同時に通関事務の円滑な運営にも差し支えが生じよう。このようなことが今回の東京外郵側の要望となったものであろう。

これに対して理事会側は、我々としては信用第一の業界団体であり、昨秋の如文出版の倒産のこともあって最近出来るだけ入会者を精選するようにしていた旨を返答した。その後いろいろと問答した結果、税関側として

は業者総数の半分以上しか洋書輸入協会が会員として持っていないければ、協会が業界の代表団体として通用しなくなるおそれがある。少なくとも過半数を会員として包含するように出来ないかというのが、要望のポイントであることが判明した。誠にもっともな話であるので、理事会としてもその趣旨に添うよう出来るだけ堅実な非会員を探し協会員に誘う努力をする旨を返答した。

(2) 海賊版について

輸入された図書が著作権を侵害するようなものであった場合には、税関として検査しなければならないので、気付けば早速連絡して貰いたい由。

(3) 課税方式の変更

船、航空機による貨物の場合には、従来ふか課税方式であったが、10月以降は申告納税制度に変更される。郵便物の場合は従来通り。

(4) その他略。

121.2 通関の簡素化

(1) 昭和42(1967)年2月25日付、JBIA No. 3で大要次のような通関関係事項の改正が会員に通知されている。

その1 航空便により輸入した書籍の通関(事後)は、原則として羽田税関支所羽田外郵便出張所において行うこととされていたが、担当官と話し合った結果、羽田と東京外郵のどちらでも任意に行って良いとの承認が得られた。

その2 無為替輸入の限度額引上げ

従来は、無為替輸入の許可は、税関限りでは500ドル(18万円)が限度とされていたが、昭和42(1967)年3月1日より、この限度額が1,000ドル(36万円)まで引上げられることとなった(通産省公報 No. 5193に記載)。ただし輸入割当を受けるべきものとして公表された品目については、従来通り18万円までとされている。

121.3 通関の迅速化、デクラによる課税

昭和42(1967)年3月14日の東京税関発の「輸出入郵便物(商品)の通関の迅速化について」という文書には次のように記載されている。即ち「現在、郵便路線による輸入商品の通関は相当の日時を要していますが、これを解消し、通関を出来る限り速くするため、4月1日から税関では新しい方式をとり入れることにしております。」と前置きした上で次のように続く。

「その大筋は、従来、郵便物の到着を通知し、貴社からのインボイス等必要書類の提出をまって課税を決定していましたが、郵便物に添加されている税関告知書(所

謂デクラ)の記載内容が正しいと認められるものについては、到着の通知をすることなく、デクラによって課税するという方式です。」

以上の趣旨から税関は、輸出国がインボイスと同じように正確にデクラを記載してくれば、通関は極めて速くなるから、業者側から外国商社にデクラを正確に記載するように連絡してくれと言っている。

洋書の大部分は無税であるが、中に課税されるものもあり、やはりこの通達は通関の迅速化につながるものである。

上記の昭和41年度の通関事情は、通関に関する規制が僅かではあるが緩められたことを示すものであろう。その背景には、昭和40(1965)年下期から始まった「いざなぎ景気」による貿易量の拡大があると思われる。

122 風俗問題

122.1 JBIA 発の自戒のすすめ

昭和41年1月31日付のJBIA No. 223では、次のように風俗出版物の取扱いを戒めている。

桃色出版物の輸入自戒について

東京税関監視部次長並びに調査課長から、最近東京市内でいかがわしい種類の洋書を販売しているとの報告があったので、本会会員にも注意するようにとの指示を受けました。

本会会員に限り絶対かかる事は無い旨の返事を致しましたが、毎度通告している通り、出版物の郵便による輸入は全部チェックすることは出来ませんので、注文の節発行所の既往出版物等御注意の上、顧客の御注文でもかかる出版物の輸入は出来るだけ防止し、本会員の名誉にかけて自戒下さる様お願い申し上げます。(以上)

同年7月26日の東京税関東京外郵出張所と理事会との懇談の席上でも、税関側が昭和33年8月の通達による事後通関の実施に関し、最も心配していることの一つはこの風俗問題にあるように思われた。即ち洋書輸入協会の会員であれば、繰り返し前記のような注意が喚起され、懇談会の席上でも口頭で伝達される。ところが非会員については個々の業者に個々に注意を喚起する以外に方法がない。その上事後通達であれば、事前にチェックの仕様がなない。インボイスが提出されて初めてチェックが出来るが、現物が配達された後では事後処理しか出来ない。このような悩みが税関側であればこそ、出来るだけ多くの業者をJBIAの会員にするようにとの勧めがあったのではなかろうか。(この項続く)

1996 年度主要國際書籍展一覽

書 籍 展 名	開催期日	開催地	連絡先 FAX
TOKYO INTERNATIONAL BOOK FAIR	2/ 8- 2/11	Makuhari	3 3345 7929
MILIA	2/ 9- 2/12	Cannes	3 5317 5420
LONDON INTERNATIONAL BOOK FAIR	3/17- 3/19	London	0181 910 7930
SALON DU LIVER, PARIS	3/22- 3/27	Paris	00 331 49532788
LEIPZIG BOOK FAIR	3/28- 3/31	Leipzig	01474 824091
BOLOGNA CHILDREN'S BOOK FAIR	4/11- 4/14	Bologna	00 39 51 282332
INTERNATIONAL BOOK FESTIVAL BUDAPEST	4/27- 4/30	Budapest	00 361 118 4581
WARSAW INTERNATIONAL BOOK FAIR	5/15- 5/20	Warsaw	02 617 8641
TURIN BOOK FAIR	5/16- 5/21	Turin	0039 11433 1056
SEOUL BOOK FAIR	5/18- 5/24	Seoul	008227385414
SPECTAL LIBRARIES ASSOCIATION EXHIBIT	6/ 7- 6/12	Boston	001 202 265 9317
AMERICAN BOOKSELLERS ASSOCIATION CONVENTION & TRADE EXHIBIT	6/15- 6/17	Chicago	001 203 840 9614
AUSTRALIAN BOOK FAIR	7/ 4- 7/ 7	Sydney	00 61 2 281 1073
AMERICAN LIBRARY ASSOCIATION ANNUAL CONFERENCE EXHIBIT	7/ 6- 7/ 9	New York	001 312 440 9374
IFLA	8/25- 8/30	Beijing	0031 7038 34827
INTERNATIONAL BOOK FAIR, BEIJING	8/30- 9/ 4	Beijing	0086 10 5063101
MOSCOW INTERNATIONAL BOOK FAIR	9/ 4- 9/ 9	Moscow	007 095 973 2132
LIHER SILAR BARCELONA	9/24- 9/28	Barcelona	00 341 3454351
FRANKFURT BOOK FAIR	10/ 2-10/ 7	Frankfurt	0049 69 2102227
CIROBE '96 (Chicago Remainder Fair)	11/ 1-11/ 3	Chicago	001 312 955 2967

Oxford University Press

DNB CD-ROM ウィンドウズ版

Dictionary of National Biography on CD-ROM Windows Version

大学・教育・公共機関	019 2683624	本体予価 149,500 円
企業	019 2683632	本体予価 345,000 円

22巻の本体と補遺10巻からなり、*DNB* として広く知られる伝記事典、*Dictionary of National Biography* は、1985年までに没した英語圏の著名な人物約4万人に関し、正確で膨大な資料を提供するものです。

この電子版辞書は、上記の全32巻の本をCD1枚に収録したものです。従来のプリント版では、調べたい人物の没年を知らないと、どの巻を探しているのか判らないという欠点がありましたが、このCD-ROM版では名前、肩書、性別、日付、職業などから、またそれらの組合せから検索する事ができます。相当の時間の節約ができ、本事典を利用する方々にはたいへん画期的な新商品です。

〈システムの必要条件〉 80386以上のプロセッサ／4MB free RAM／DOSバージョン5.0以上／最低3MBのハードディスク空き容量／ウィンドウズバージョン3.1以上／VGAまたはSVGAモニター／MS CD-ROM拡張ソフトウェアバージョン2.1以上



オックスフォード大学出版局

〒171 東京都豊島区要町2-4-8 Tel 03-5995-3901

1995年12月

通巻第343号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所 藤本綜合印刷株式会社